

昭和村統合小中学校推進協議会

ともに学び、ともに育つ学び舎づくり

▶ 問合せ 教育委員会学校教育係 ☎ 24-5120



建設候補地として「鎌沢案」を選定

建設候補地の評価項目として「文化財調査費用試算」、「杭打ち追加試算」、「学校施設整備補助単価の推移」、「スクールバス運行費用追加試算」を新たに加えて、第14回および第15回の会議で協議しました。

◆第14回推進協議会 5月29日(金)

共通項を一对とした一对比較法を用いて行った投票結果は次のとおりです。(欠席2名)

【投票結果】

- ①校舎活用案は「東小0：南小22」
- ②校舎解体新築案は「東小0：南小22」
- ③新地新築案は「福祉センター東4：鎌沢18」

◆第15回推進協議会 6月1日(月)

前回会議で選定された「南小活用案」、「南小解体新築案」、「鎌沢案」の3候補地について一対一で比較し、委員24名全員による投票を行いました。投票結果は下図のとおりです。

結果集計後、再度全体で協議を行い、協議会の総意として「鎌沢案」を最終候補地案としました。

【投票結果】

	南小活用案	南小解体新築案	鎌沢案	合 計
南小活用案		10	3	13
南小解体新築案	14		8	22
鎌沢案	21	16		37

「鎌沢案」が選ばれた理由

児童への負担軽減

建設期間中、児童の移動がなく、学習環境や心身への負担が最も少ない

公平性の確保

全地区の児童が同じ条件で新しい学校生活を始められる

事業推進の確実性

埋蔵文化財調査による工事遅延のリスクが低いと判断

これらを踏まえ、
推進協議会の総意として、
「鎌沢案」を選定しました

未来への投資

村の未来を象徴する、新しい教育理念にふさわしい校舎をゼロから設計できる

「鎌沢案」の課題

現在考えられる「鎌沢案」の課題として主に次のものがあげられました。「村民の皆さんにご理解をいただけるように、改善案や修正を可能な限り行うことが必要」と判断し、地域説明会で説明していきます。

コストの圧縮

概算で71億円の事業費は圧縮が必要不可欠となっています。

圧縮方法として、敷地規模の見直しや既存施設の活用などが挙げられました。

説明責任の遂行

財政が厳しい中、高コストな案を選んだ理由を明確に説明します。

コストだけでなく「児童の負担軽減や村の未来への投資である点」などを評価し判断しました。

周辺地域の影響緩和対策

学校設置による候補地周辺の影響を緩和できるよう、生活用道路の確保や周辺道路の整備、施設の配置等について、コスト面も含め協議しました。